

デジタル田園都市国家 が目指す将来像について

第二回デジタル田園都市国家構想実現会議(令和3年12月28日)

デジタル大臣 牧島かれん

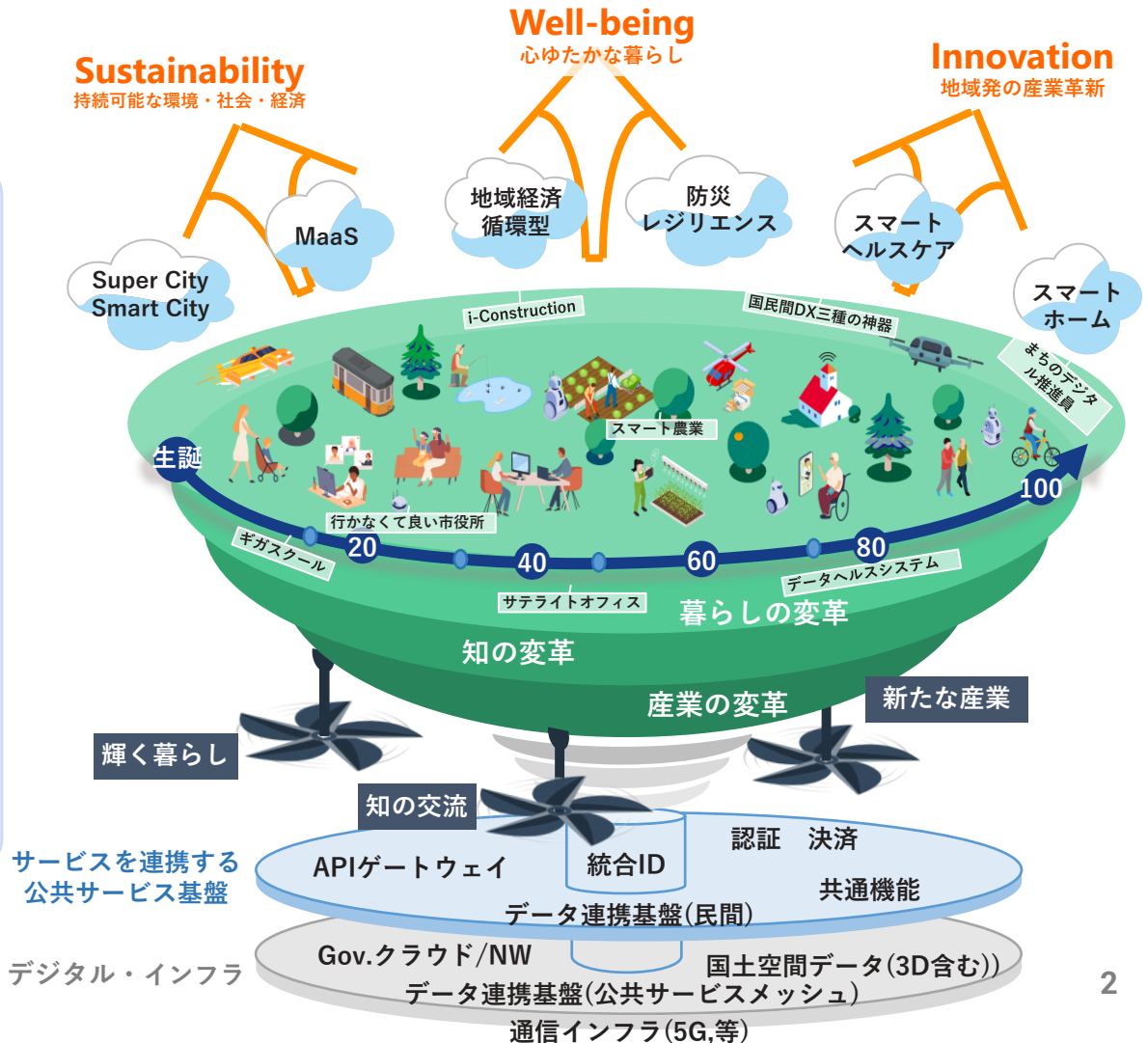
デジタル庁

デジタル田園都市国家構想の成功の鍵

- デジタルの力で、「暮らし」「産業」「社会」を変革し、地域を全国や世界と有機的につなげていく取組。
- 国が整備するデジタル基盤の上に、共助の力を引き出し、各地域で全体最適を目指したエコシステムを構築する。
- 常時発展・改革していくためにも、知の中核として大学を巻き込み、関係者全員でEBPMを実践することが必要。

● 5つの成功の鍵

- ① 人の一生涯の暮らしや生きがいと、地域の新たな産業をデジタルでフル・サポート。
- ② そのため、国、自治体、市民、大学、産業など関係者の力を特定ビジョンの下に総動員。
- ③ 社会活動に必要な機能を近接した空間に集め、その関係性を深めるよう、地域の空間全体も再設計。
- ④ 参加する全関係者がEBPMのサイクルを共有し改善の有無を検証し、取組の方向性を確認。
- ⑤ 構造化されたデジタル共通基盤（インフラ、データ連携基盤・公共メッシュ、サービス）の整備・浸透。



暮らしからの変革

- 現在は、多くの場合、教育、仕事、治療・介護、などのために「地域」から離れざるをえない環境。
- これからは、ゆりかごから墓場まで「田園都市」で最先端の知、仕事、文化とふれあい、デジタルの力で教育から生活、医療に至るまで時空を超えて最先端サービスを提供。
- 制度的課題はデジタル臨調で解決。



暮らしからの変革 実践例

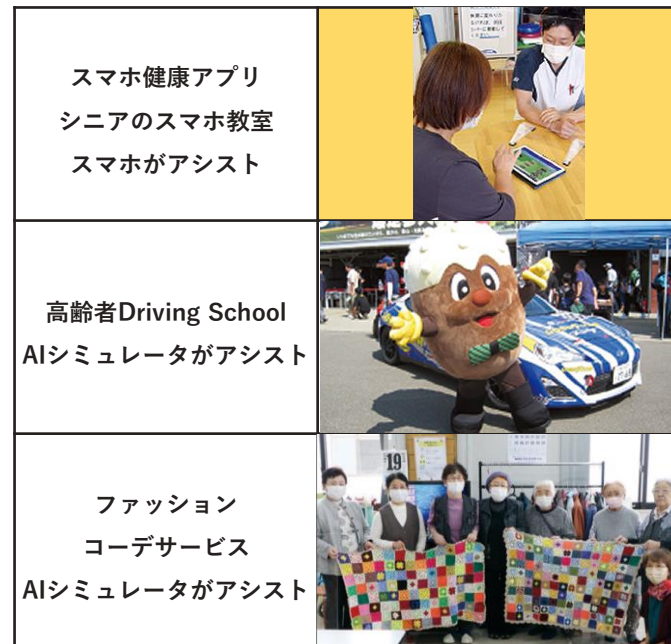
- **Community Nurse**（リアルなサポーター）が、デジタルの助けを借りつつ、シニア一人一人のライフプランを実現する社会の実現を狙う。



Community Nurseのような
リアルなサポーターが、
AI/デジタルの力を借りて、



公民館のようなリアルな交流・
コミュニティ活動も組み合わせ。



- 公民館DXの三種の神器
- スマートロック（予約機能付）
 - Wi-Fi（高速ネット環境）
 - スマート会議室



都市空間からの変革 (包摂性空間)

- 職住学遊が互いに**近接しデジタル・インフラが整った空間**、「**インクルーシブ・スクエア (IS)**」を構築。
- ISに、デジタル田園都市に求められる機能や人材を集結し、密度の濃い空間に関係者を総動員。
- 現代の人は、快適で便利でクールな空間を求めるもの。ISにいれば世界最先端のサービスを楽しむ。



学 **グローバル水準の教育の提供**

- 世界の大学の授業が受講可能
- 無料寄付講座の展開により、リカレント教育を促進

交流 **地域に開放された公共空間**

- 図書館、公民館等、地域住民も利用可能な施設

交通結節点で広域にアクセス

- 駅、空港間のシャトルバス(空飛ぶ車)の充実

交流 **来街者と地域住民をつなぐコミュニティマネジメント機能**

- DX人材育成推進員の設置
- 自治体職員の派遣と常駐
- 高度デジタル人材との交流
- 民間人材と子供の交流

遊 **地域住民の参加機会の創出**

- カフェ、レストラン
- 地元事業者のキッチンカーやマルシェへの出店

大学等サテライト

社会企業家/スタートアップ棟

企業コラボ棟

家具付き賃貸住宅

図書館等公共施設

インクルーシブ公園(防災対応)

地産地消(農業、漁業)市場開催

Wi-Fi

エネルギーネットワーク

良質な環境を形作るハードインフラ

エリア内の高速な無線NW

高速なNW回線

職 **地域スタートアップの育成**

- 自治体との協働プロジェクトへの参加
- 地域住民向けピッチ
- 新産業領域の拠点化 等

職 **質の高いワークプレイス**

- グローバル会議室
- 豊富な個室
- 個人ロッカー

住 **デジタル人材の止まり木**

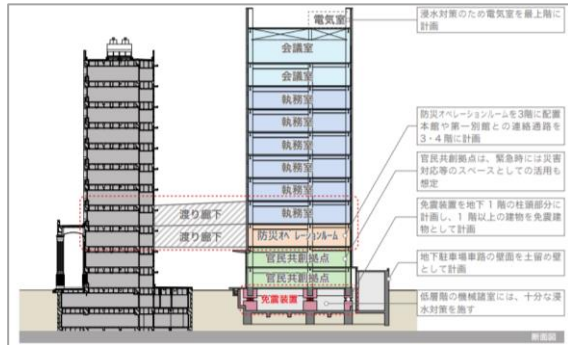
- 中長期滞在型サービスアパートメント
- 災害時の避難場所、備蓄倉庫等にも利用

都市空間からの変革 実践例

- 地域の特性を踏まえた、質の高い「インクルーシブスクエア（IS）」を各所に構築。
- 働く拠点を複数持ちながら、各地での知の交流を契機に、地域課題から地球規模の課題まで、解決策を訴求する。

愛媛県庁第二別館（2025年竣工予定）

- 愛媛県庁第二別館の建て替えに伴い、低層階を企業やNPOとの共創スペースに
- 官庁のDXをスタートアップ含めた民間企業とともに促進



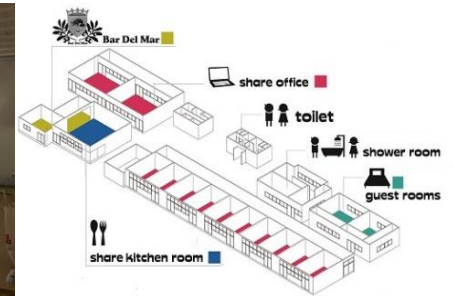
Trip Base 道の駅プロジェクト

- 全国の道の駅に隣接したホテルを拠点とし、新しい旅のかたちを提案するのが狙い。



シラハマ校舎（千葉県）

- 2016年千葉県最南端・白浜町に誕生した新型の多目的施設。旧長尾幼稚園・小学校の木造校舎をリノベーションし、オフィス、宿泊、レストラン等商業施設



早稲田リサーチパーク地区 コミュニケーションセンター、インキュベーション・オン・キャンパス（IOC）本庄早稲田（埼玉県）

- 「早稲田リサーチパーク地区」として位置づけられ、先端的科学技術、産業創造に関わる国際貢献のできる研究開発、人材育成機能、情報通信・交流機能の集積を図ることが期待されている



産業からの変革

● 「人と産業を呼ぶ」、「デジタル地場産業を生む」、「新たなビジネスを興す」の三段階で地域産業構造を変革。

- **Stage1** : サテライトオフィスに様々な人材・知見が交わる空間を作り、新たな産業創出の基盤を整える。
- **Stage2** : 大学・高専などを核に人材や知見の環流を進め、デジタルを活用した新たな産業を生み出す。
- **Stage3** : 地域がそのコミュニティ力を生かして、世界へ羽ばたくベンチャー・新事業を生み出し育てる。

Stage1

- サテライト・オフィスの整備
- 各府省・自治体・大学/高専、市民など関係者の力を総動員



福島県会津若松市 スマートシティAiCT



山形県鶴岡市 鶴岡サイエンスパーク



徳島県神山町 神山バレー・サテライト
オフィス・コンプレックス

Stage2

直進キープ田植機 経営管理アプリ ラジコン草刈機



スマート農業

スマート・ヘルスケア

スマート防災

ベースは共助の人間関係
大学・高専など核に官民で人材環流

スマートコミュニティ

MaaS(新たな移動サービス)

i-Construction



Stage3

■ 世界へ羽ばたくスタートアップ創出



Spiber

超タフネスな次世代のスーパー繊維「クモ糸」を開発したスパイバー（鶴岡市）は発の量産工場をタイに創設(2021.3.)



各エリアでの創業支援環境を整える

自然電力

30代3人で創業した再エネベンチャー自然電力（福岡市）28か国の従業員とともに、既に海外8か国で再エネ事業を展開



ベトナム35MW太陽光 →

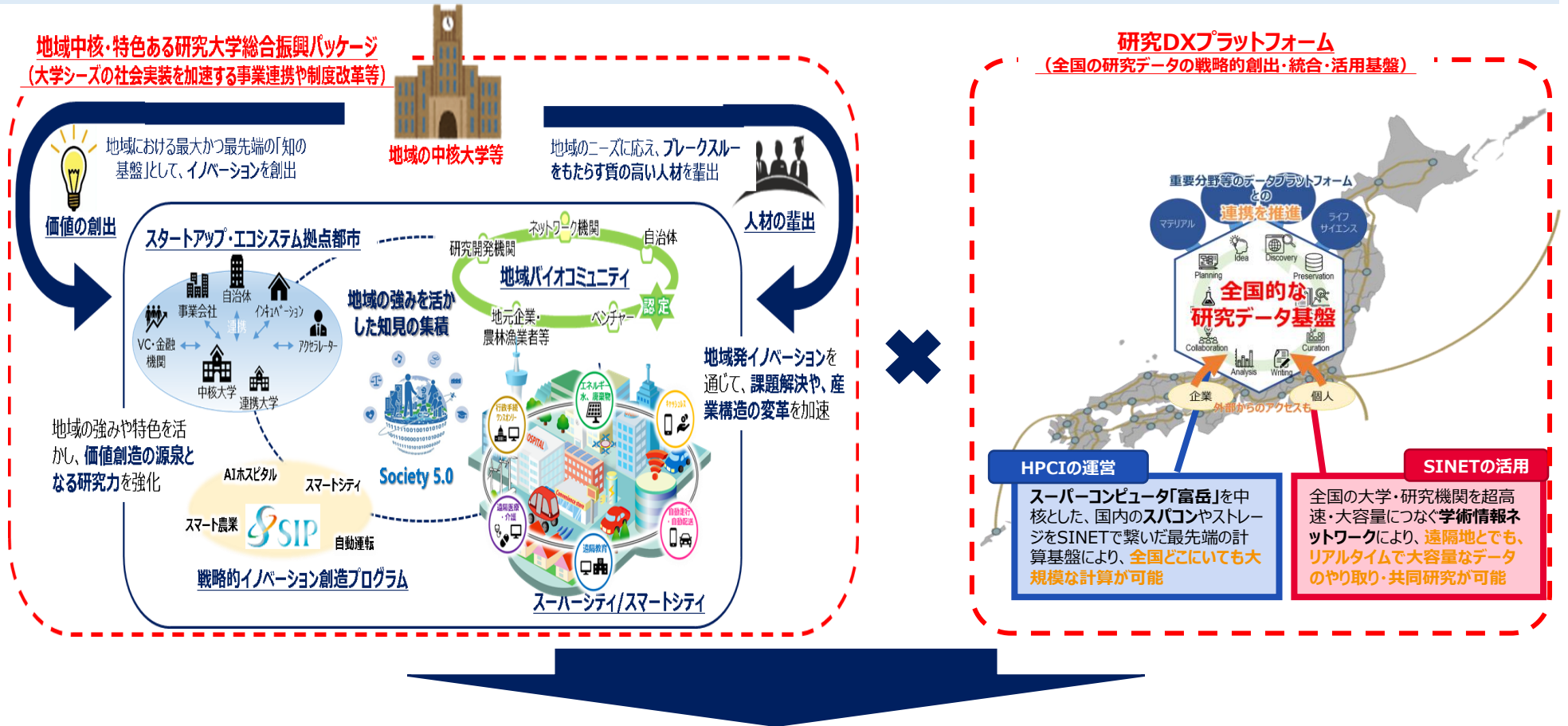
産業からの変革 新たな産業を興すために（いつでもどこでもスタートアップ）

- 地域の大学等が生み出した「新たな知」を育てる スタートアップ・エコシステム拠点都市の機能が不可欠。
- デジタルの力も活用して、スタートアップ・エコシステム拠点都市における 先進的取組事例を横展開するとともに、産学官民が協調してスタートアップを育成。
- その成果をさらに全国の自治体に展開することにより、全国の自治体のデジタル化に貢献する。



大学からの変革 大学等をデジタル田園都市の中核に

- デジタル田園都市の持続的発展のためには、内外の「知」を呼び寄せることが不可欠。
- デジタルの力により地域中核大学等を世界最先端の研究基盤（「富岳」等）/技術/情報と連結。
- 地域にしながら、最先端教育・研究を実現。あふれ出る「知」を地域社会変革の原動力に。



地域中核・特色ある研究大学の地域社会における活躍の促進



全国的にオープンな研究デジタル基盤



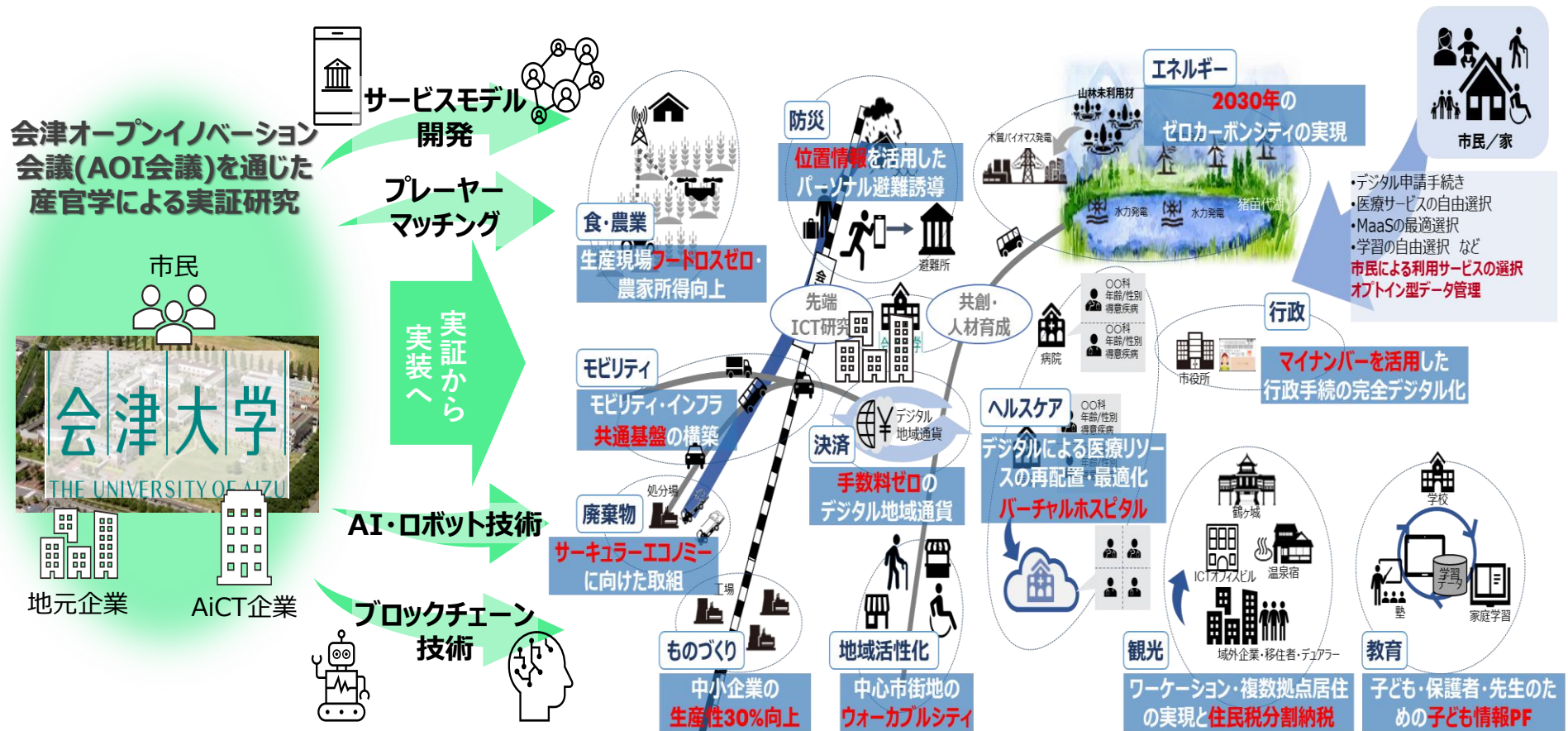
全国の大学を核とした知の変革を通じて、産業の変革をもたらし、各地にデジタル田園都市を実現（分散型の成長モデル）

大学からの変革 実践例：会津大学から地域への知の還流

- 会津若松では、デジタルに強い会津大学が積極的に先端的な研究開発をリード。
- 会津大学がコアとなって会津オープンイノベーション会議を主催し、産官学のマッチングと実証研究を推進。
- その成果が、12領域にわたって、会津若松の暮らしの随所に実装されている。

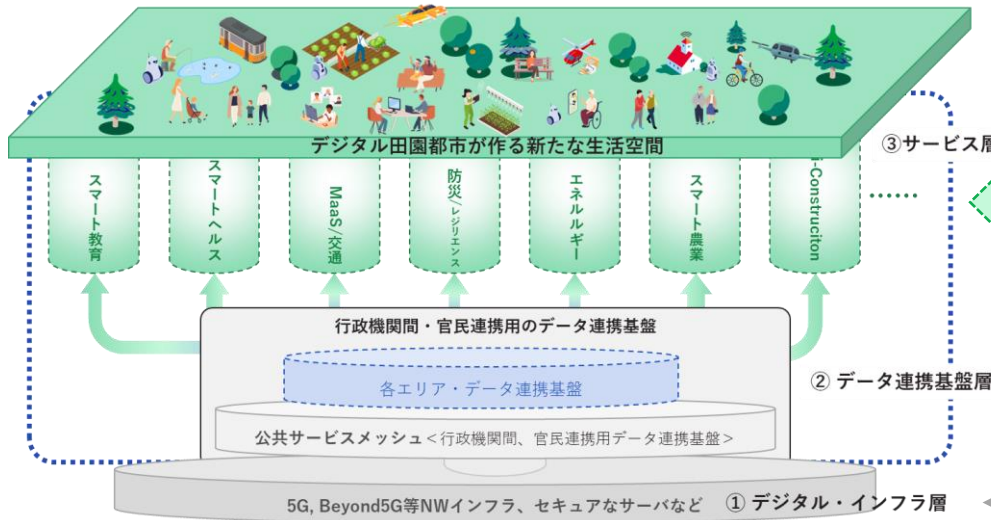
会津大学を核とした共創・実証研究

12領域にわたる地域全体へのデジタル実装



デジタル田園都市を支えるデジタル基盤の構築について

- デジタル田園都市の実装は、**まずは、先進的なサービスの開発・実装から**展開し、徐々にその充実を図る。
- 民間同士、官民など、**セクター間のデータ連携実需が見えてきた段階で、データ連携基盤の整備**をはじめめる。
- KPIに基づく**EBPMを基礎に、取組全体の改善を随時、アジャイルに続ける**こととする。



まずはサービスから

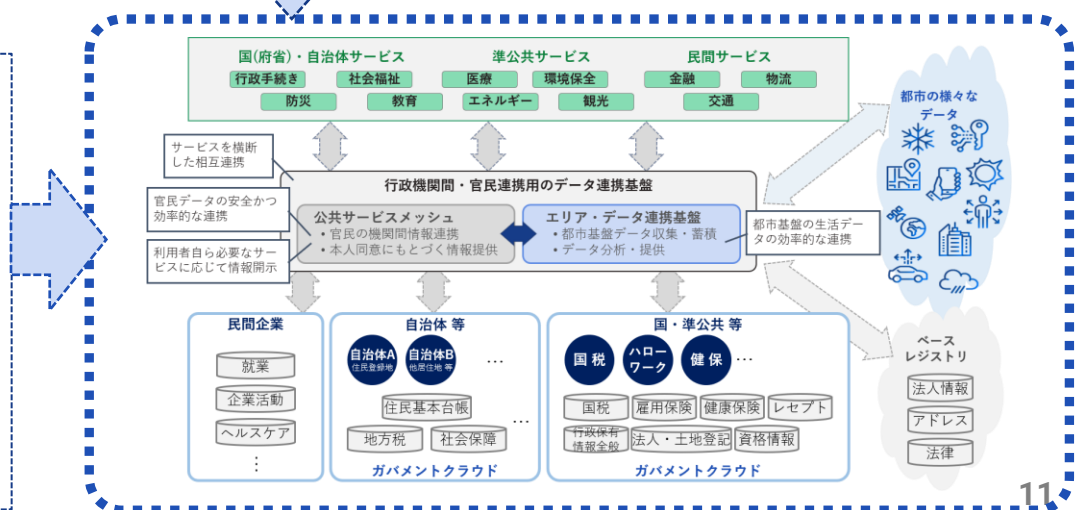
- Super City / Smart City、MaaS、スマートヘルス、スマート防災、スマート農業、スマートホーム、行政のDXなど、いずれの切り口からでも、それぞれの**地域の実情に合わせ、デジタルの効果を実感できる分野から、官民連携してサービスの構築**を行う。
- 特定のVision/KPIを共有しつつ、徐々に提供するデジタル/サービスのメニューを充実。**サービス間のデータ連携が見えてくる段階で、国が整備を進めるデータ連携基盤の実装を進める。**

デジタル・インフラはしっかり整備

- 国の主導により、民間活力も活用しつつ、**最先端のデジタルインフラを日本中にしっかりと整備**。

熟度が上がってきたらデータ連携基盤を整備

- 行政機関間でデータ交換を行うための基盤、「**公共サービスメッシュ**」は、**国自身が整備を行い、自治体事務にも提供**を行う。
- 官民連携や民間サービス間でのデータ交換を行うための**エリア・データ連携基盤**については、**コアとなる部品とアーキテクチャを国が提供**する。
- **データ連携基盤の機能、使い勝手などについては、各エリアでの利用状況屋現場の声を踏まえ、随時改善**を続けることとする。
- こうした基盤の整備によって、全てのサービスにおいて、必要に応じ、国、自治体、民間企業、教育・医療など準公共分野のサービスを担う機関、ベースレジストリ、インターネット上にあるオープンな情報などにアクセスでき、データの利活用が行える環境を構築する。



デジタル推進委員による デジタルに不慣れな方々へのサポート体制の整備

- 誰一人取り残されない、人に優しいデジタル社会の実現には、デジタルに不慣れな方々へのきめ細かなサポートが必要。
- 総務省、厚生労働省等の関連事業や各種団体と連携し、デジタルの利用（スマホ等の操作、オンライン行政手続等）について、高齢者、障害者等の国民向けにサポートする者を「デジタル推進委員」として委嘱。
(※) 総務省：デジタル活用支援推進事業、厚生労働省：障害者ICTサポート総合推進事業
- 令和4年前半から委嘱手続を開始し、国民運動として展開予定。
⇒ 携帯キャリアショップ店員等（約1万人）から開始し、順次、ボランティア団体構成員、IT企業OB、高専生・大学生、老人会・町内会等へ拡大を目指す。

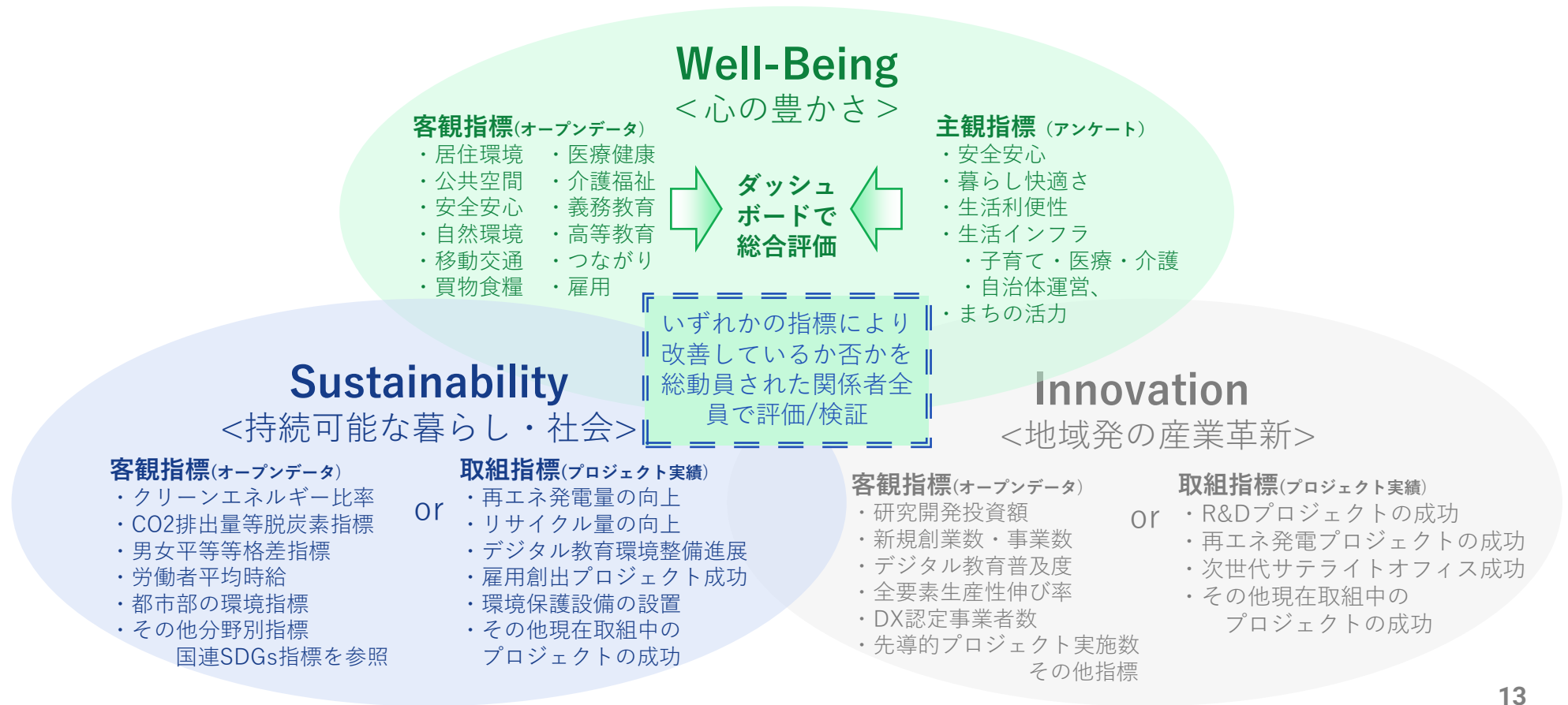


デジタル活用支援推進事業（総務省）における講習会等の様子



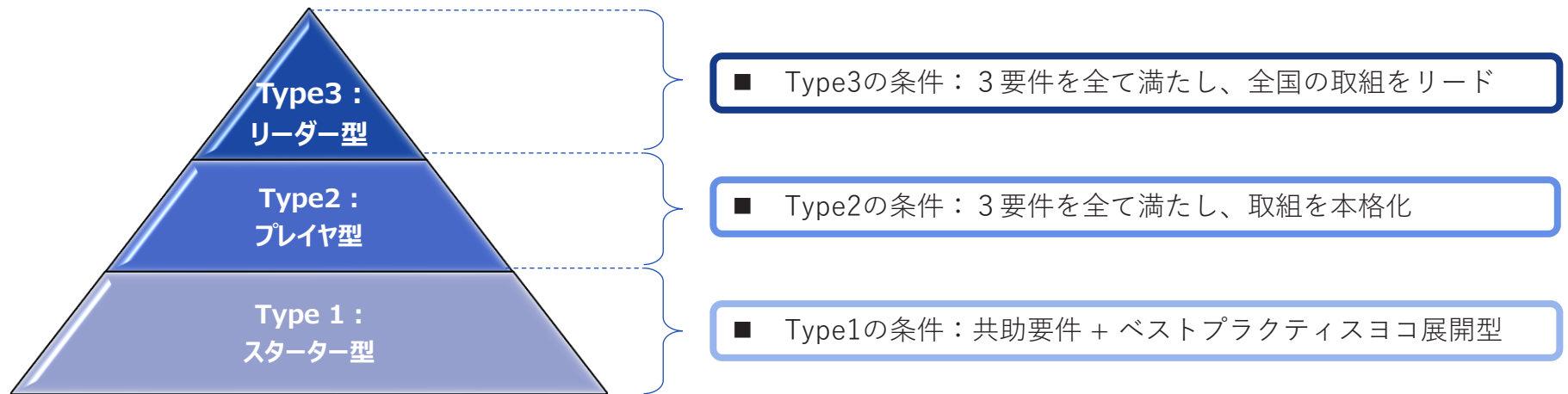
目標（KPI）の設定とEBPMの推進

- デジタル田園都市が常に進化するためには、目標やビジョンの特定とEBPMが不可欠。
- 様々な取組がバラバラに行われることのないよう、適切なKPIと実現を目指すビジョンを取組間で特定・共有。
- KPIの設定に当たっては、まち全体のWell-Being指標を活用。 困難な場合、各分野の指標を活用。
- 関連データやKPIは極力リアルタイムでモニタリング。 関係者全員で、施策や取組の効果の有無を検証。
- デジタル臨調と連携した制度改革も念頭に、データに基づき施策や取組の改善を、アジャイルに実現。



デジタル田園都市に関する取組の成熟度

- デジタル田園都市国家構想実現に向けた取組を以下の3タイプに分類し、モニタリングする。
 - Type1 (スターター) : デジタル原則を参照した検討を開始しており、他の地域等で既に確立されている優良なモデル・サービス (※) を活用して、地域の個性を活かしたサービスを地域・暮らしに実装する取組み
(※) 事例集を別途提供予定
 - Type2 (プレイヤー) : デジタル原則とアーキテクチャを遵守し、オープンなデータ連携基盤を活用するもの
 - Type3 (リーダー) : Type2の中でも、先導的なユースケースを先行開発できるもの
- 個々のデジタル田園都市における政策進捗度評価の基準として、当該地域におけるデジタル実装の取組を、他府省施策を含め政府が支援する際のインセンティブ (優先採択等) への活用も検討。



【デジタル田園都市構想の取組の成熟度を評価するための共通要件】

- ①共助要件 : 特定されたVisionの下、複数の事業者が連携し、サービスの生活実装に取り組んでいること(※)。
 - ②デジタル原則要件 : 官民および民間事業者間での相互連携性の確保をはじめ、デジタル原則にコミットしていること。
 - ③オープン基盤要件 : オープンなデータ連携基盤を活用する (予定のものである) こと。全国展開の可能性を持つこと。
- (※) ①技術実証ではなく、生活への実装を目指すものであって、②一過性ではなく継続的に取り組み、③将来的には全国展開を志向するものであること。

デジタル庁